

オリエンテーリングの普及に奮闘している人たちがいる。中学校の総合学習の中でオリエンテーリングを経験してもらうための山形での取り組みを紹介する。

どのように実施したのか？

オリエンテーリング大会の参加者減少に危機感をもってから久しい。種類の要因があることは確かであるが、何故か国内を統括している中枢からその分析も対策も聞こえてこない。

昨年、延 750 名の男子生徒にフットとスキーのグループオリエンテーリングを実施した桐蔭学園中学校が、今年も総合学習をオリエンテーリング形式で行った。夏休み前、教師等から問合せもあり関心を寄せている関係者も見られた。普及の参考に今年実施した地図と方法を列記する。

対象：男子中学生

1・2・3年生人数：339名。

例年実施されているサマーキャンプの一環なので、4～8名の縦割り（宿泊同室者）グループ。

場所：山形県民の森（山形市西方約15km）、同地区には県営の学習展示館や山形市少年自然の家があり、付属の学習施設が整っている。

地図：「沼の森」2003年6月作成。注：縮尺1:10000、等高線間隔5m、ISOM2000準拠。

期日：平成15年7月15日（火）

時間：09:00～15:00（昼食含む）

事前準備

- 1 約2ヶ月前、全般の下見に学校側引率責任者と宿泊施設責任者同道で行う。
- 2 沼廻りコースと森巡りコースの2コースを設置することとして調査・調整する。
- 3 学習コントロールに配置する樹木の説明員を手配する。
- 4 通過予想コース上の点検・整備（草刈等）をする。
- 5 出発前に鑑賞する標本収集。
- 6 到着後に体験する丸太切準備。



集合したグループは座ります。リーダーの手腕が問われます。

- 7 地図のコース印刷・ポリ袋封印。地図は、各自1枚配布。
- 8 樹木観察要領（資料）の作成。学校には、特別天然記念物「琵琶沼」の調査報告書も提供したが中学生の学習としては高度なので除外することになった。

事前学習

- 1 総合学習として観察・調査については、事前に要領を学習させる必要から、現地出発前に横浜市の学校周辺でクラス毎に実習している。
- 2 コントロール間の移動はオリエンテーリング、ほとんどが初心者だが、その教育は前日の夜、宿舎の大広間に全員をグループごとに集合させ、地図とコンパスを配布して、1時間のレクチャーのみ。
- 3 初心者講習で一般的に行われている小難しいコンパス使用法や地図読みの説明には全員の理解度に差があるので簡単に流し、グループ内の役割り分担のアドバイスに留め、実行動を監視して実技補導に重点を置いた。
- 4 総合学習としての観察&調査に学習ポイントの場所探しに時間を費やすと爾後の行動に制約が生じるので、トレイン内の特徴ある樹種の存在地を地図に記載しそれらの概要を説明した。

グループ内の役割

グループ人数に差があるが、基本的役割りとして次のようにアドバイスした。

グループの携行品

コース地図	各自1枚
コンパス	2個
コントロールカード	1枚
油性ペン	1本
学習帳	各自1冊
その他	各自の弁当 水筒、雨具等。

役割り

- 1) リーダー
 - 2) 方向維持係
 - 3) 距離測定係
 - 4) カードパンチ係
 - 5) 通過時刻記入係
 - 6) 学習記録係
- グループ人数により兼務あり。

コントロール数とコース距離

森コース：10箇所、7800m
沼コース：10箇所、8200m
両コースの共通コントロール4箇所有り、両コースの進行方向は基本的に同方向である。

タイムテーブルと要領

学習展示館見学：

スタート指定時刻まで自由見学。

スタート：

トップスタート 09:30、各コース
毎1分間隔。2G同時スタート。

コントロール：

パンチ方式として携行したカード
にパンチすると同時にコントロ
ールに定置してある各コースの
通過時刻記入カードに通過時刻
を記入する。

ルート：

各コントロールまでのルートは複
数あり、観察コントロール以外の
主要な学習観察地点を地図に表
示している。

位置説明：

トリム-0 要領で日本語で表記。

学習観察ポイント：

森の案内人として、4名の指導員
を配置し、各グループは1箇所以
上の説明を受ける。

給水・昼食：

給水は、水筒を携行しているがル
ート上に数箇所の給水施設とト
イレが存在する。昼食場所は自由。

ゴール：

ゴール閉鎖 15:00。閉鎖の15分前
に到着を厳守すること。

ゴール到着後：

ゴール到着後、バス発車まで余裕
のあるグループは、和製鋸で丸太
切り体験をさせる。体験させる丸
太は、針葉樹、広葉樹のそれぞれ
固い樹種と柔らかい樹種の丸太
を用意した。



競争じゃなくてもゴールは嬉しい

役員・指導者の配置

学習展示館見学促進係	2名
スタート係	3名
パトロール	2名組で3組 (コントロール撤収兼務)
森の案内人	4名
ゴール係	3名
丸太切り体験指導	3名

学校側引率教師 10名 / 宿泊施設社
員 3名 / オリエンテーリング指導員
2名 / 森の案内人 4名の合計19名で相
互兼務。

学習観察報告

観察報告は各自毎として学校が定め
た期日までに提出する。

結言

実施日の夜、宿舎で合同反省会を予
定していたので、生徒の生の声を聞け
るはずであったが、反省会の時間が制
約を受けるアクシデントがあって聞け
なかったが、個人的に接した生徒と教
師の反応に継続性の手ごたえを感じた。

昨年、今年と学校側の伝統的都合に
より、従来のサマーキャンプの一環と
してオリエンテーリングをやり、尚且
つ総合学習としてやっているが、成長
期で知識の差がある中学生を縦割りグ
ループとして編成していることに、オ
リエンテーリングのコースプランと総
合学習のテーマ選択の双方に無理を感
じていた。

校長もそれに気が付いたかどうか定
かでないが、来年からのキャンプは同
一学年で行われるらしいから、コース
プランも学習テーマもその学年に相
応しいものに用意できるでしょう。

又、高校生とか或いは初任教師の研
修には、生物や地学の学習として採用
もお勧めできるでしょう。

筆者のねらいは、社会的に認識の薄
いオリエンテーリングを多くの生徒や
教師に体験させ、用語と行為が国内で
一般的に通用し認知されることであり、
今後、散発的でもいいから学校関係者
に普及してくれると本望です。

資料は、教育技術に疎く要領を得ま
せんので完全に纏めていませんが、実
技的指導と問合せには応じられます。
桐蔭学園中学校は、1月にウィンターキ
ャンプとして1年男子生徒が昨年に続
いてスキーオリエンテーリングに挑戦
します。スキーに触ったことも無い生
徒も居り、雪と戯れることから始まり
ますが、学校側の目的と生徒の目標に
貢献できることは、フットとは又違っ
た意味で、指導の楽しみが待っていま
す。

終わりに、多用途に利用可能な地図
の作成に尽力してくれた町井稔氏(多
摩 0L)と米本路憲氏(仙台 0LC)、そし
て多様中にも関わらず協力していただ
いた細谷健一氏(山形県協会会員)、平
林静保さん(東北大)に心から感謝し
ています。

(武石雄市)



役割分担して次のコントロールに進む
5名のグループ